

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800444
法人名	株式会社フレンド
事業所名	グループホーム フレンド香住ヶ丘 (ユニット名 )
所在地	福岡市東区香住ヶ丘2丁目3-23
自己評価作成日	令和5年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4090800444-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4090800444-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和5年3月3日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様本位の生活をしていただく(今までの生活スタイルを維持し過ごしていただく)。壁面には、カレンダーなどを入居者様に貼り絵などで作成していただいたものを飾っている。春夏秋冬を感じて頂くように、季節に応じたイベントを設けている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路からは近いが少し入った住宅街に建っているため外部からの騒音もなく落ち着いて過ごすことが出来る。開設して6年とまだ新しいホームで、開設当初から勤務している職員もおり、開設時の想いを新しい職員にも伝え和を取りながら日々のケアに励んでいる。社内研修後には「振り返りシート」を受講職員に提出してもらい、管理者がチェックして研修内容が身につくように工夫している。コロナ禍で色々と制限をされる中、利用者が安心して楽しく過ごせるように努めている。コロナが収束した折には以前のよう近隣との交流や外出行事も再開したいと願っている職員が多い。これからも地域の福祉事業所として取り組みが期待される。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にスローガンを作り、実践している。	法人全体の理念とは別に、事業所で毎年管理者が主体となり職員と一緒にグループホームにあった1年間のスローガンを作っている。今年度は「季節ごとの行事を利用者様と一緒に楽しむ」と掲げている。調査日の3月3日はひな祭りの行事食が提供されており、日々の実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	12月の消防訓練には地域の方にも案内し、お互い助け合える環境を作る。	コロナ禍前は外部からのボランティアを受け入れてイベントを行ったり、地域の運動会や夏祭りへの参加や保育園からの訪問があっていた。収束した折には再開したい意向である。校区内にある介護事業所で作る「さくらネット」に参加を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、カフェなどにお連れしていたが、コロナ禍は難しい状況であるため、コロナ収束に伴い地域の人とのかかわりを増やしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響で施設内への立ち入りが禁止されている状況でも、開催月には案内(報告事項)を郵送し、施設内の状況を知らせている。	コロナ禍において運営推進会議は書面報告を行い、後日委員や家族等へ電話で意見を聴取するようにしている。会議で出された意見は職員間で検討するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類等不明なことがあれば、都度連絡し、回答を得ている。	職員個人で登録している認知症サポーター養成の講師依頼があり講師をしたり、地域包括支援センターと事業所の空き情報を連絡し合ったり、介護保険制度上の加算について市の担当窓口相談したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを用意しているが、分かりやすい資料があれば全員に配布し学ぶ機会を設けている。	身体拘束の研修を年2回行っている。参加できない職員には研修シートを読んでもらっている。全職員が参加できるように同じ内容の研修を2回続けて行うこともある。研修後は全員に振り返りシートを提出してもらい管理者が確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックに関しては常日頃から気を付け、不適切な言葉遣いはあれば、なぜいけないのかを説明し、適切な言葉づかいで接するように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修を通して、管理者等が過去にあった事例などを伝えるようにしている。	年間計画に組み込まれており、1年に1～2回研修を行っている。職員は必要性を感じた時はリーダーを通して管理者に伝え支援する体制がある。過去に1名の方が成年後見制度を利用していった事例がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、書面を見てもらいながら説明し、1項目ごとに理解して頂いているか確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度に関しては面会など、要望が多かったののでできることについては書面にてお知らせし、一つでも多くご理解頂けるようにしている。	家族より「スカイプ面会の予約が1週間前になっているが予約日を縮めてほしい」との要望があった。事業所の都合上予約日の変更は難しいが、3月13日からは居室内の面会が可能になるので対応していく。いただく意見等についてはその都度検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者sとしては、可能な限り職員の意見に耳を傾け、提案してくれたことについては実施している。	改めて意見や提案を聴き取る機会を設けておらず、日頃から管理者やリーダーは話しやすい関係性にある。今年度は座りやすい椅子の提案をし購入してもらった事例があり、意見等は実施に向け検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、実績を把握してくれ、能力があると認められたものについては、ステップアップする環境を与えてくれる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に関しては、やる気等内面を判断材料にしている。研修参加、資格取得など本人が希望すれば、会社として応援してくれる。	採用は性別年齢を理由に排除することはない。休憩はきちんと取れており、職員は自分の特技や趣味等を活かしながら生き活きと働くことができている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時や年間を通して人権に関する研修を実施している。	入職時及び入職1～2年後に動画を見て学んでいる。年間研修の計画の中にも組み込まれておりその後は書面にて研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に必要な知識、身につけて欲しい実技等、研修等があれば、それぞれに案内している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と交流を増やしていくために、ネットワーク作りに参加していたが、コロナウィルス感染拡大の為、中断している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人面談をする際に、本人のお話をしっかり聞き、不安要素を一つ一つ取り除くように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の見学時に、まずお困りになっていることから尋ねるようにし、ご家族様の思いに寄り添うようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者に同席してもらい、ご本人及びご家族様の要望を踏まえた上で、サービスの利用を提案している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるかもしれないことを見つけ出し、職員と共に生活をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様からの要望、施設からの要望を調整し、ご本人様本位の生活を支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの影響で面会禁止とさせて頂いている中で、スカイプを利用するなどして、今までの関係をなくさないようにしている。	コロナ禍で以前のような支援は出来ていないが、電話が可能な利用者は電話による交流を支援している。事業所のブログの更新頻度を週1回に増やし、同意のある方は顔写真も掲載し、知人等に様子を伝える手段の一つとしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性なども鑑みながら、席の配置を考え、話しやすい環境にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	先方の都合を聞きながら、ご退去されてからの「今」をお聞きし、お手伝いできることを話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様は職員にいろいろ話をしてくださるので、できる限り要望に応えるようにしている。	職員は訪室した折に、ゆっくり対面で傾聴するよう心がけ、利用者の思いや好きな事、苦手な事等を聞くようにしている。得た情報は申し送り等で全職員共有して、ケアに反映している。聞き取り困難な場合は、利用者の表情、仕草等を丁寧に観察し、家族からの情報も得て、出来得る限り気持ちに寄り添えるケアに努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成担当者が的確に情報を集めているので、「これまで」を大切にしながら、支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターンを確認し、簡単な運動や脳トレを取り入れている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士のミーティング、その結果を家族様に伝え、家族様の考えもお聞きし、ご本人様にとって必要とされるものを介護計画に反映している。	計画作成者が利用者、家族、職員から情報を収集し、健康面は主治医や提携している訪問看護師より意見を聞き、現状にあった計画を作成している。プランは全職員が把握できる体制があり、基本6ヶ月毎に見直ししており、意向や体調等の変化があれば、臨機応変の見直し修正をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートに気づいたことを記入し、個別ケアをしっかりと実施できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	筋力低下、嚥下機能低下など回復して頂くために、主治医と連携し、訪問看護(リハビリテーション)を多く利用している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイケアの利用など支援策を講じているが、現在は中止している状況。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の希望を主治医に伝え、今、必要であることが実施できている。	入居前からの外部主治医利用者の通院介助は家族が同行している。家族に事業所内での生活状況を伝えてもらい、医師からの指示を口頭で職員は聞き、申し送り等で共有している。家族が専門医への受診困難な場合は職員が対応できる体制はある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には、個々の状況を説明し、往診が必要である場合には、直接、主治医に伝えてもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院してから1週間から2週間の間に、病院関係者へ連絡をし情報を入手し、家族様と交え、早期退院に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様とは連絡を密にし、話し合いを何度もし、今後の方針を決めている。	24時間連携できる医療体制があり、職員は看取りのマニュアルで研修を受け、学習の場がある。看取りの経験があり、不安な新人職員へはベテラン職員がフォローする体制もある。家族の付き添い希望へも寝具等準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナウィルス感染拡大前は、職員に消防署の救命救急の研修を受けていたが、現在はDVDやネット情報を出し、知識を身に付けてもらっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	12月の消防避難訓練には地域の方にも案内し、お互い助け合える環境を作る。ここから、地域との連携を深める一歩にしていきたい。	法人が作成した各災害別マニュアルはあり、定期的に備蓄品の管理や、消火設備点検を実施している。定期的に年2回昼夜想定火災避難訓練を実施している。あらゆる場所からの出火に対しての避難経路、場所・持ち出し書類等の職員周知が十分とはいえない状況がある。また、訓練への地域住民の参加には至っていない。	法人の災害マニュアルはあるが、当住居が2階3階の建物である。有事の際、職員が落ち着いて対応できるように、様々な場面を想定した、事業所独自の対応マニュアル作成について、今一度検討する機会を持つが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを、介護者の入職時に伝え、敬う気持ちを持って支援するようにしている。	定期研修で全職員が接遇や尊厳、プライバシー保護について学習する機会がある。職員は敬語での声掛けを行い、訪室する際は、ノックをして了承を得る実践ができています。排泄介助等では羞恥心への配慮にも心がけている。記録はタブレット操作で行い、利用者の目に入らないように行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の訴えを第一に考えて支援しているが、自らの思いを出しづらい方へは、興味を持っていることを二つ三つと提案する、選ぶことのできる環境を作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	曜日、時間で何をするかを決めている方へは、希望通りに過ごして頂き、ご自身のペースで日々を過ごして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方へは、化粧やマニキュアをして頂き、男性の方へは無精ひげにならないよう髭剃りを日課にしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の取り分け、食器拭き等、お手伝いをしてくださる環境を作っている。	食事は外注で、職員が温め、盛り付けを行っている。出来る利用者には後片付けを手伝ってもらうようにしている。利用者の希望を聞いて、レクリエーションでホットケーキ、おはぎ、時には稲荷寿司などを一緒に作り楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぼ毎日同じ摂取量、水分摂取量になるよう支援し、また嚥下状態の悪い方へはトロミをつけて提供したり、無理のないよう支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で歯磨きできる方でも最後に口の中を見せて頂き、介助が必要な方へは職員がしっかりとケアをし、難しいところは歯科衛生士へ助言を求めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中については、排泄パターンを確認しトイレへ誘導している。	入院中オムツ使用だった方が退院後、少しずつ食欲が戻り、立つことやトイレ誘導の再開で布下着とパッド併用に改善した事例がある。本人の生活意欲が高まり、家族も喜ばれており、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量には気を付け、牛乳など飲んでもらうなどしている。排便コントロールに関しても主治医に相談をし、ご本人が辛くないようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、ご本人の意向を尊重し、入浴日や時間をずらし、気持ちよく入浴してもらえるようにしている。	浴室と脱衣室に暖房設備があり、ヒートショック対策をしている。浴室内のタイル壁に風景画を飾り、温泉気分を楽しめている。一人ずつ好みの湯音に調整しゆっくり入浴してもらっている。職員との会話も弾む場であり一緒に歌うこともある。入浴を拒まれる場合は、無理強いすることなく、本人が安心して入浴できるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々入眠時間が違うので、ご本人が眠りたいと仰った時に居室にお連れし休んでもらう。日中についてもご本人の望む通りに休んでもらっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を読み、追加になったお薬があった場合には薬剤師に直接、作用副作用を聞くようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	DVD鑑賞、貼り絵、ペダル漕ぎなど、ご本人の楽しみを毎日続けてもらえるよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染拡大前には、今年は花見をできればときかかしていたが中止せざるを得なくなった。落ち着けば、来年は外出の機会を増やしていこうと考えている。	コロナ禍で外出ができておらず、職員は利用者へ四季を感じてもらえる行事や、創作活動を取り入れるなど一緒に楽しめる工夫をしている。3月中旬から対面でも面会再開予定があり、今後は外出機会を検討していく意向である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、買い物等の支援は出来ていないが、こちらも来年は実施出来たらと考えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スカイプ及び電話を利用してもらい、入居者様と家族様を繋ぐ支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面飾りとして、四季を感じ取れるものを作成し飾っている。	ゆったりした共有空間があり、廊下にはソファが配置され、好きなところでくつろぐことができる。掃除が行き届き、コロナ対策で1日に3回、手の触れる場所の消毒と換気を行っている。空調設備も充実しており過ごしやすい環境となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の造りでもあるが、食事スペース、テレビを見るスペースに分けられており、思い思いに過ごせる環境にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで生活してきた環境に近づけるために、家族様の協力の下、再現している。	居室は適度な広さがあり、自宅から使い慣れた家具やテレビ、お位牌、趣味の作品等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわからなくなる方が多いので、大きな文字で分かるように書いている。		